

福岡大城農業協同組合  
南筑後普及指導センター

今年の麦は、11月下旬～1月が高温で経過したため、生育は旺盛で、7～10日程度早くなっています。今後も暖冬傾向が続く場合、播種期によっては早期茎立ちにより凍霜害が発生する恐れがあります。そこで、麦の収量安定のため、下記のような対策を行いましょ

## 1 排水対策

麦は畑作物です。排水対策の良否が収量・品質に直結します。雨の後、ほ場に水が溜まらないよう排水溝を整備し、地表水の排水条件を整えましょう。

## 2 土入れ・踏圧

踏圧は、倒伏防止、早期茎立ち抑制のため、節間伸長開始期（踏圧の晩限：草丈20～25cm程度）までに実施します。

節間伸長開始期は、播種期により差が大きいので、ほ場の状況を見て判断して下さい。

土入れは、倒伏防止や雑草防除の効果が高いため、3月上旬までに2～3回実施しましょう。

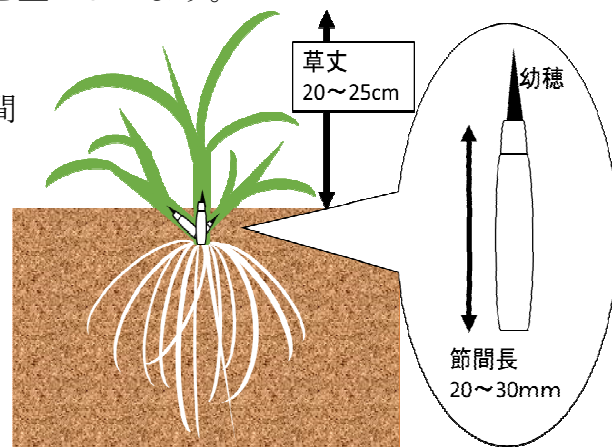


図 茎立ち期（節間伸長開始期）の目安

## 3 雑草防除

### <広葉雑草対策>

雑草の種類に合った薬剤の選択が必要です。麦作こよみを参考に、雑草の種類を極めて下さい。現在、キンポウゲ類やヤエムグラ、ミチヤナギの発生が見られます。

除草剤名	使用時期	10 a 使用量	注意点
ハーモニー75DF 水和剤	節間伸長前まで 目安：2月中旬まで	7.5～10g	ミチヤナギに効果あり カラスノエンドウへの効果劣る
アクチノール乳剤	穂ばらみ期まで 目安：1月中旬～3月上旬	150～200ml	カラスノエンドウに効果高い キンポウゲ類への効果劣る
バサグラン液剤	麦類の生育期 (小麦：収穫45日前まで 大麦等：収穫90日前まで) 目安：1月中旬～3月上旬 大麦等は2月中旬まで	100～200ml	キンポウゲ類に効果高い カラスノエンドウへの効果劣る 散布後の降雨で効果劣る 高温・晴天時が効果高い

※農薬の散布にあたっては、近隣にある他作物、住居などに注意してください。

**農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！**